

**■正誤問題** (過去に出題された選択肢) 30問

内装工事・断熱工事に関する問題です。○×で回答して下さい。

答えが×になった場合は、どこが間違っているのかも考えてみましょう。

1. 天井仕上げに用いる化粧合板の切断は、化粧表面から行った。
2. 脱衣室にビニル床シートを張り付けるに当たって、ウレタン樹脂系の接着剤を使用した。
3. 床仕上げに用いるフローリングについては、割付けは室の端部から順次行い、寸法の調整は室の出入口部で行った。
4. 床面への発泡プラスチック系断熱材のはめ込み工法において、断熱材の継目部分に隙間が生じるおそれがあったので、気密層を設けた。
5. 壁の下地材に木質系セメント板を直接張り付けるに当たって、留付け用小ねじの間隔は、各板の周辺部で200mm程度とした。
6. 接着剤を用いる張付け工法による断熱工事に当たって、下地コンクリートの豆板(じゃんか)の発生箇所には、豆板(じゃんか)をはつり取り、樹脂モルタルを充填した。
7. 木造住宅の屋根面におけるはめ込み工法による断熱工事に当たって、断熱層の室内側に通気層を設けた。
8. 全面接着工法によりタイルカーペットを張り付けるに当たって、基準線に沿って方向をそろえ、中央部から行った。
9. 接着工法によりフローリングを張り付けるに当たって、エポキシ樹脂系2液形の接着剤を使用した。
10. せっこうボードを洗面所内の天井に張り付けるに当たって、ステンレス鋼製の小ねじを使用した。
11. ニードルパンチカーペットは、消防法に定める防災性能を有するものを使用した。
12. 織じゅうたんの敷込みは、グリッパー工法により行った。
13. 天井仕上げに用いる化粧合板の切断は、化粧裏面から行った。
14. 外壁に設ける通気層は、厚さを18mmとし、その上下端部は外気に開放した。
15. 断熱材打込み工法による外壁コンクリートの工事を行うに当たって、押出法ポリスチレンフォーム保温板を使用した。

16. 外壁に設けるポリエチレンフィルムの防湿層は、継目を木下地の上に設け、その重ね幅を 50mm とした。
17. ビニル床シート張りの表面仕上げは、接着剤の硬化後に全面を水ぶき清掃し、乾燥後に樹脂ワックスを用いてつや出しを行った。
18. コンクリート下地にせっこうボードを直張りする場合、せっこう系直張り用接着剤の乾燥期間は、せっこうボード表面の仕上げ材に通気性があったので、10日とした。
19. コンクリート下地にせっこうボードを直張りする場合、せっこう系直張り用接着剤の間隔は、各ボードの周辺部で 300~350mm とした。
20. ビニル床シートの張付けは、下地モルタルを施工して 14 日後に接着剤張りとした。
21. 外壁に設ける通気層は、断熱層・防風層の屋外側に厚さ 8mm で設け、その上下端部を外気に開放した。
22. 天井のグラスウール断熱層の室内側を、厚さ 0.15mm のポリエチレンフィルムで覆った。
23. 洗面室、洗濯室まわりの壁の下地材料として、JAS(日本農林規格)による普通合板の 1 類を用いた。
24. フローリングボードの床張りにおいて、ボードの継手位置は、隣接するボードの継手位置から 150mm 以上離して、乱継ぎとした。
25. ビニル床シートの張付けは、接着剤を所定のくし目ごてを用いて下地面へ平均に塗布し、べた張りとした。
26. 湿気のおそれのある洗面所におけるビニル床タイルの張付けには、アクリル樹脂系接着剤を用いた。
27. コンクリート下地に、せっこうボードを直張りする場合、せっこう系接着剤の間隔は、各ボードの周辺部で 150~200mm とした。
28. 布基礎の断熱材の取付けを打込み工法により行う場合、押出法ポリスチレンフォームを用いた。
29. 天井の木造下地材に、せっこうボードを直張りする場合、留め付け用釘の間隔は、各ボードの周辺部で 90mm 程度とした。
30. 吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材の吹付け作業において、断熱材の必要な厚さが 30mm であったので、2層吹きとした。

## ■正誤問題 解答編

1. 天井仕上げに用いる化粧合板の切断は、化粧表面から行った。  
1. ○
2. 脱衣室にビニル床シートを張り付けるに当たって、ウレタン樹脂系の接着剤を使用した。  
2. ○ **水の影響を受けやすい箇所には、ウレタン樹脂系あるいはエポキシ系の接着剤を使用します。**
3. 床仕上げに用いるフローリングについては、割付けは室の端部から順次行い、寸法の調整は室の出入口部で行った。  
3. × **フローリング類の割付けは、室の中心より外側に張り分けます。**
4. 床面への発泡プラスチック系断熱材のはめ込み工法において、断熱材の継目部分に隙間が生じるおそれがあったので、気密層を設けた。  
4. ○
5. 壁の下地材に木質系セメント板を直接張り付けるに当たって、留付け用小ねじの間隔は、各板の周辺部で200mm程度とした。  
5. ○ **壁下地にボード類を留付ける小ねじの間隔は、周辺部は200mm程度、中間部は300mm程度とする。**
6. 接着剤を用いる張付け工法による断熱工事に当たって、下地コンクリートの豆板(じゃんか)の発生箇所には、豆板(じゃんか)をはつり取り、樹脂モルタルを充填した。  
6. ○
7. 木造住宅の屋根面におけるはめ込み工法による断熱工事に当たって、断熱層の室内側に通気層を設けた。  
7. × **通気層は断熱層の室外側に設けます。**
8. 全面接着工法によりタイルカーペットを張り付けるに当たって、基準線に沿って方向をそろえ、中央部から行った。  
8. ○
9. 接着工法によりフローリングを張り付けるに当たって、エポキシ樹脂系2液形の接着剤を使用した。  
9. ○
10. せっこうボードを洗面所内の天井に張り付けるに当たって、ステンレス鋼製の小ねじを使用した。  
10. ○
11. ニードルパンチカーペットは、消防法に定める防炎性能を有するものを使用した。  
11. ○

12. 織じゅうたんの敷込みは、グリッパー工法により行った。

12. ○

13. 天井仕上げに用いる化粧合板の切断は、化粧裏面から行った。

13. × 壁・天井の仕上げに用いる化粧合板の切断・穴あけの加工は、化粧表面から行います。

14. 外壁に設ける通気層は、厚さを 18mm とし、その上下端部は外気に開放した。

14. ○

15. 断熱材打込み工法による外壁コンクリートの工事を行うに当たって、押出法ポリスチレンフォーム保温板を使用した。

15. ○

16. 外壁に設けるポリエチレンフィルムの防湿層は、継目を木下地の上に設け、その重ね幅を 50mm とした。

16. × シートの継手は 100mm 以上重ね合わせ、その上からボードなどを留め付けます。

17. ビニル床シート張りの表面仕上げは、接着剤の硬化後に全面を水ぶき清掃し、乾燥後に樹脂ワックスを用いてつや出しを行った。

17. ○

18. コンクリート下地にせっこうボードを直張りする場合、せっこう系直張り用接着剤の乾燥期間は、せっこうボード表面の仕上げ材に通気性があったので、10日とした。

18. ○直張りの場合の接着剤の乾燥期間は、仕上げ材に通気性がある場合は 10 日以上、ない場合は 20 日以上とします。

19. コンクリート下地にせっこうボードを直張りする場合、せっこう系直張り用接着剤の間隔は、各ボードの周辺部で 300~350mm とした。

19. × せっこう系直張り用接着剤の間隔は、各ボードの周辺部で 150mm~200mm とします。なお、それ以外の部分では、床上 1.2m 以下の部分は 200mm~250mm、床上 1.2m を超える部分は 250mm~300mm とする。

20. ビニル床シートの張付けは、下地モルタルを施工して 14 日後に接着剤張りとした。

20. ○ モルタル塗り下地は施工後 14 日以上、コンクリート下地は 28 日以上乾燥させます。

21. 外壁に設ける通気層は、断熱層・防風層の屋外側に厚さ 8mm で設け、その上下端部を外気に開放した。

21. × 通気層の厚みは原則として 18mm 以上とします。

22. 天井のグラスウール断熱層の室内側を、厚さ0.15mmのポリエチレンフィルムで覆った。

22. ○

23. 洗面室、洗濯室まわりの壁の下地材料として、JAS(日本農林規格)による普通合板の1類を用いた。

23. ○

24. フローリングボードの床張りにおいて、ボードの継手位置は、隣接するボードの継手位置から150mm以上離して、乱継ぎとした。

24. ○

25. ビニル床シートの張付けは、接着剤を所定のくし目ごてを用いて下地面へ平均に塗布し、べた張りとした。

25. ○

26. 湿気のおそれのある洗面所におけるビニル床タイルの張付けには、アクリル樹脂系接着剤を用いた。

26. × 湿気及び水の影響を受けやすい箇所には、エポキシ樹脂系接着剤が適しています。

27. コンクリート下地に、せっこうボードを直張りする場合、せっこう系接着剤の間隔は、各ボードの周辺部で150~200mmとした。

27. ○

28. 布基礎の断熱材の取付けを打込み工法により行う場合、押出法ポリスチレンフォームを用いた。

28. ○

29. 天井の木造下地材に、せっこうボードを直張りする場合、留め付け用釘の間隔は、各ボードの周辺部で90mm程度とした。

29. ○

30. 吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材の吹付け作業において、断熱材の必要な厚さが30mmであったので、2層吹きとした。

30. ○ 1回の吹付け厚さは、10~20mmが標準であり、これ以上の厚さが必要な場合は、多層吹きとする。

